



エルミタージュの桜

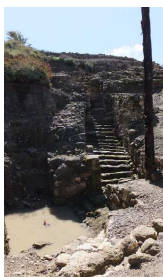


ソメイヨシノ

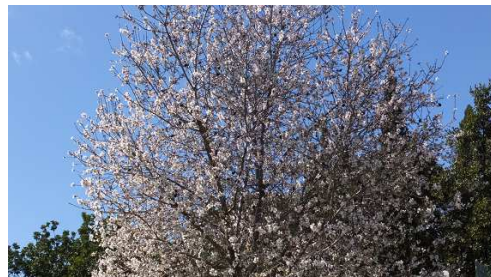
今朝も、まず、薄暗いうちから、エルミタージュの庭の桜を眺めました。もう満開になりました。けれども、花冷えと言う状態でしょうか、シーンと静まり返った広い庭に、青白い桜は憂いを帯びているように少し寂しげに見えました。今朝は、幽玄の桜といった風情です。私は桜の名所と言われる弘前、上野で暮らしたことがあります。つい、桜の時期になると、浮かれてきて、お花見をしたくなります。一番好きなお花見は、ちらほら散り始める花の下で、玉子焼きの入ったお弁当を食べながら見る、そして、場所は青空の下の緑の野が一番素敵です。エルミタージュの住人になってからは、リビングでお茶を飲みながら、窓越しに、様々な桜の表情を楽しんでいます。

聖書の民は「お花見」、「紅葉狩り」など、木々を愛でるために出かけるという趣味はなかったようです。聖書には、桜の木は登場しません。「松明」という言葉がありますから、松はあったのでしょうが、日本人が思い描く松とは違う種類の松なのでしょう。「花より団子」という言葉がありますが、彼らはまさにその世界に生きていたようです。実のなる木、木材に利用できる木を大切に育てたようです。ただ、コヘルトだけが、「[あめんどうの花が咲き](#)」と、木の花に目を止めています。野の花は命の儂さの譬えに用いられていますが、イエス様は「[野の花がどのように育つのか、注意して見なさい](#)」(マタ6:28)と、思い煩わずに、生かされている命を愛でるようにと、勧めておられます。

昨年イスラエル旅行を楽しみましたが、野にはたくさんの可憐な花が咲いていて驚いた記憶があります。最後に訪ねたメギドの丘に、アーモンド(あめんどう)の花が満開を過ぎていましたが、見事に咲いていました。桜の花のように柔らかい、薄桃色の花でした。メギドは古戦場でしたから、遺跡はありましたが、すっかり明るい春の野になっていました。



メギドの遺跡



メギドのアーモンドの木



アーモンドの花